

2019年度 武雄市立山内東小学校 学校評価計画

<p>1 学校教育目標</p> <p style="text-align: center;">ふるさと山内を誇りに思う 東っ子の育成</p> <p>人と出会う、人とかかわる、人とふれあう、 地域と共にある学校をつくる</p>	<p>2 本年度の重点目標</p> <p>1 できた！ わかった！ みんなが分かる授業づくり(学力向上)</p> <p>2 あいさつ・返事・はきものそろえの徹底と道徳授業の充実 (心の教育)</p> <p>3 「スポーツチャレンジ」への挑戦(体力向上)</p> <p>4 地域の人的、物的資源を活用したふるさと学習の推進(郷土愛)</p> <p>5「働き方改革」の実現に向けた取組</p>
--	---



3 目標・評価						
① できた！ わかった！ みんなが分かる授業づくり(学力向上)						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌 (部)	担当者
学校運営	○教職員の資質向上	・授業研究の推進	・特別の教科道徳における授業研究を進め、全員が年1回以上の授業を公開し、研究会を実施する。 ・各教科等の指導で、積極的にICTの活用を図る。	・授業の創意工夫のために、職員同士が指導技術を共有できる校内研究を行う。 ・互いの授業を参観し合う機会を増やし、ミニ研修会を随時開き、授業力向上に生かす。 ・学習用タブレット端末等を使った研修会を行い、タブレットを積極的に活用する。 ・学習意欲の向上と学びあいの深まりを目的に、ベッパ―を使ったプログラミング学習の実践に取り組む。	管理職 学力向上 部 研究部	教頭 田中 徳永・井 手
	●学力の向上	・基本的な学習習慣の定着と学習内容の確実な定着 ・家庭学習の定着(習慣化)	・12月の県学習状況調査において、十分達成基準に近づく(0.9以上)。 ・正答率分布の二極化傾向を解消。 ・「家で宿題をきちんとする」と回答する児童や保護者が80%以上。	・学力検査の結果を分析し、児童の実態に合った指導方法、指導形態を考え、個に応じたきめ細かな指導を行う。 ・朝の時間の「花まるタイム」を効果的に活用し、「音読」「図形」「計算」「視写」の4つを軸に、児童にスキルを身に付けさせる。児童をリズムとテンポで巻き込み、教師の指導力を向上させる。 ・家庭学習定着のため、ドリルや漢字など、繰り返し反復する宿題に加え、発展的内容を含めた課題を出す(宿題の出し方を工夫する)。 ・「家庭学習ノート」を配布し全校で統一した自主学習の形式を提示し、各学級で発達段階や個に応じた自主学習の推進につなげる。 ・「学力向上だより」を定期的に配布し、学力向上に対する保護者の意識を高める。	学力向上 部 研究主任	田中 徳永
教育活動	○校内研究の充実	・教師の指導技術の向上および指導方法の改善	・校内研究に授業力を磨く場を設定する。 ・職員アンケートにおいて「校内研究の取組はよかった」と80%以上の職員が回答する。 ・「授業づくり1・2・3」の「ステップ3」への到達率80%。	・校内研究に全職員が「スモールトーク」を行い、模擬授業や指導方法、教材分析に関する学ぶ場を位置づけ、指導技術の共有を図る。 ・教師の板書や児童のノートなど、研究通信で定期的に配布し、指導方法、指導技術の共有化に努める。 ・年2回の講師招聘(授業研)による授業研究会と全員授業(グループ研・事前)に取り組む。 ・「授業づくり1・2・3vol.1&2」を活用した授業実践を日々行っていく。学習過程に系統性のある学び合い活動を位置づけたモデルを提示し、実践を図る。月末に振り返りシートを提出し、見直しを図る。	研究部 学習部 教務	徳永・井 手・低学 年部長・ 高学年部 長 松尾・平 川・石丸 田中

○読書指導・学校図書館教育の充実	・児童の読書意欲の向上 ・読書活動の推進	・児童一人当たりの年間貸し出し冊数を80冊以上にする(低学年150冊、中学年100冊、高学年80冊以上)。 ・学校アンケートにおいて「毎日読書をする」児童の割合80%以上にする。	・朝の時間(立腰前)に読書を推進する放送を流し、児童に呼びかけ習慣化する。 ・「おすすめの本50冊」を設定し、児童に一定の冊数を読み進めるよう呼びかける。 ・50冊を読み終わると、「読書マスター」に認定し、氏名を図書館便りで紹介する。さらに各学年の目標冊数に達すると「スーパー読書マスター」として表彰する。 ・年2回の校内読書週間を設け、重点的に読書を推進し、児童の関心・意欲を高める。	学習部	岡・平川
------------------	-------------------------	--	--	-----	------

② あいさつ・返事・はきものそろえの徹底と道徳授業の充実(心の教育)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌 (部)	担当者
教育活動	●心の教育	・立腰タイムの充実 ・躰三原則の徹底 ・道徳教育の充実 ・人権教育の充実	・毎朝、全校立腰タイムを履行する。 ・基本的な学習習慣(返事と反応)「元氣よく挨拶できた」と回答する児童を80%以上にする。 ・「靴・トイレのスリッパ並べができる」児童を90%以上にする。 ・「ふれあい道徳」による授業参観率を70%とする。 ・「道徳の授業」が楽しいと回答する児童の割合を70%以上にする。 ・学校アンケートにより、「学校が楽しい」と回答する児童を80%以上にする。	・朝会や集会などで趣意説明を行い、立腰の大切さや効果について、具体的に話し、指導を徹底する。 ・「挨拶・返事・履物そろえ」を合い言葉に、学級経営の柱に掲げ、日常的に継続して指導を行う(児童を見逃さない「教師の目」)。 ・「ちょぼらしゅう隊」の運動等全校をあげて「挨拶運動」に取り組む。 ・靴箱やトイレのスリッパ等、定期的記録を取り、取り組み達成状況を数値で示す。 ・授業参観で、年1回「ふれあい道徳」を実施し、地域や保護者に公開する。 ・人権集会の実施と学級での振り返り指導を実施する。 ・人権標語に取り組み、集会で発表する。	生活部 教務 道徳主任 人権・同和教育担当 特別活動部	中尾・徳永・林 田中徳永 山下・森 井手・吉永
	●いじめの問題への対応	・早期発見・早期対応体制の充実	・毎月の生活アンケートを行い、いじめや生徒指導上の問題の早期発見に努める。 ・本校の学校いじめ基本方針をいじめの認知・覚知に対する対応マニュアルも含めて見直し、充実させ対応の迅速化を図る。 ・「自分がされていやなことは、人にしない 言わない」の合言葉を周知させる。	・生活アンケートは、毎月実施し子供たちの生活の様子を把握していく。 ・いじめの認知・覚知に対する教職員のハードルを下げるためのマニュアルを作成することで、早期発見ができる体制を作る。 ・全校集会や学級活動、授業の折に触れて話す機会を設け、児童に周知する。 ・道徳の授業を核に、いじめ防止や人権教育を含めた児童の心を耕す授業作りを行う。	生活部 道徳主任 特活部	中尾・徳永・林 徳永 森ち・井 手・吉永・ 山下
	○特別支援教育の充実	・一人ひとりの児童のニーズに応える特別支援教育の推進	・支援の必要な児童については、全職員で共通理解する場を毎月1回以上開催し、全職員で支援する体制づくりに努める。 ・特別支援教育に関する研修会を年1回は行い、教師の意識、専門性を向上させる。	・「気になる子」に関する情報交換の場を週1回設け、該当児童の状況について共通理解を図る。 ・特別支援学校の巡回相談員やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーへの相談体制を構築する。 ・ケース会議や職員研修の場を設け、合理的配慮に基づいた指導、インクルーシブ教育の視点に立った対応ができるように環境を整える。	特別支援教育・教育相談	吉永・森 せ・南

③ 「スポーツチャレンジ」への挑戦(体力向上)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌 (部)	担当者
	●健康・体づくり	・継続的に取り組む運動の定着 ・歯と口の健康づくりの推進	・「スポーツチャレンジ」に各学級1種目以上取り組み、継続的に運動に慣れ親しむ。 ・保健便り等を通して、う歯治療率を50%以上にする。	・「スポーツチャレンジ」を実施期間を設け、全校で継続的に取り組む。定期的に結果を公表し、掲示することで、運動に対する意欲を持続させる。 ・虫歯の放置に伴う悪影響について話し、う歯の治療勧奨を行う。 ・歯科校医と連携しブラッシング指導を行い、自分の歯と口の状態を知り、児童の意識を高める。	保健主事 保体部	田中 今村・浦 南・荒川 森せ

教育活動	○食育の充実と推進	・「早寝・早起き・朝ご飯」運動の推進	・保護者アンケートにおいて「早寝・早起き・朝ご飯」実施率を90%以上にする。	・望ましい生活習慣の定着を図るために、生活習慣カードに、「早寝・早起き・朝ご飯」の項目を設定し、児童、保護者に啓発を図る。	保体部	今村・浦森・南
		・「食育」についての指導	・給食時間の衛生(手洗い・清潔な身なりなど)を徹底する。 ・「給食の時間が楽しい」と回答する児童を80%以上にする。	・学校給食を通して、衛生指導を行い、食に関する意識を高める。 ・献立表や「食育だより」などを通して、望ましい食生活について、児童や保護者へ啓発を図る。	栄養教諭	荒川
		・望ましい食生活の習慣育成(生活習慣病の予防)	・保健便りやアンケートを通して、朝食をとることの大切さの理解と啓発を行い、朝食をとって登校する児童の割合を90%以上にする。	・啓発活動だけでなく学級活動や保健指導の中で、望ましい食生活について取り上げ指導していく。	栄養教諭 養護助教諭	荒川 南

④ 地域の人的、物的資源を活用したふるさと学習の推進(郷土愛・自己形成)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌 (部)	担当者
学校運営	○学校経営方針の周知	・学校教育方針、内容の周知を図る	・「ふるさと山内を誇りに思う東っ子の育成」についての認知率を教職員100%、児童90%にする。	・職員には、年度当初の職員会議や連絡会の時間を使い、経営方針について共通理解を図る。 ・児童には、全校朝会や集会等で折に触れ、話をする。校内にも掲示をする。 ・保護者には、PTA総会で学校説明を行う。また、学校便りや各担任からの学級通信、懇談会で周知する。 ・地域には、学校便りや学校ホームページ、各種会合等で説明する。	管理職 情報教育	校長・教頭 石丸・中尾
	○開かれた学校づくり	・コミュニティ・スクールの推進 ・官民一体型学校づくりの推進	・学校運営協議会を年3~4回開催し、出された意見を学校運営に活かしていく。 ・地域へ定期的に情報を発信する。 ・保護者の授業参観や行事参加を80%以上にする。	・各委員から出された意見を学校運営に活かしていく。 ・学校便りを毎月発行する。地域へ回覧し学校の様子を伝える。また、学級通信の発行、学校メールを積極的に活用する。 ・「学校お知らせメール」を活用し、授業参観や育友会行事など、積極的に参加してもらうよう促す。 ・地域や保護者へ割り当て当番表の配布や啓発活動を推進し協力を求めていく。 ・「花まるタイム」への参加を通して、学校の様子や児童の実態を把握してもらうよう努める。	管理職 教務 校長 教頭 教頭	校長・教頭 田中
教	●志を高める教育	・自ら夢や目標の実現に向け努力する気持ちを高める教育の推進	・「自ら夢や目標の実現に向け努力する気持ちがある」とアンケートで答える児童80%以上。	・授業にキャリア教育の視点を取り入れた年間計画を作成する。 ・道徳や総合的な学習、特別活動を中心に、先人の功績や生き方について考えさせる授業づくりを行い、日本人の気概について学習させる。 ・年間計画にもものづくり体験を位置づける。一流の職人を外部講師に招き、体験活動を通して、将来の職業に対する見方、考え方を児童に学ばせる機会を設定する。 ・山内町出身で、社会に貢献し活躍している人をゲストティーチャーに招き、夢や希望を持つすばらしさについて、話を聞く機会を設ける。 ・高齢者体験、手話体験、車椅子体験等を通して、様々な立場から、生き方について考える機会を設定する。	教務 道徳推 特活部 教務 担任 高学年	田中 徳永・森 ち 田中 井手・中 尾・平川・ 浦

育活動		<ul style="list-style-type: none"> ふるさと学習の推進 地域を生かすカリキュラム 体験活動等を通じた郷土への理解と愛着の深化 	<ul style="list-style-type: none"> 「山内町のことが好き」と回答する児童を90%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の教育課程に、郷土学習を位置づけ、地域・保護者と連携・協力しながら、体験活動を行う。 	教務	田中
			<ul style="list-style-type: none"> 郷土について学ぶ体験活動を授業で積極的に取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 高学年を中心に郷土学習資料や「佐賀語り」などを活用し、生き方について考えさせる場面を授業に取り組む。 	高学年	井手・中尾 浦・平川
			<ul style="list-style-type: none"> 地域の教育資源や地域諸団体の人材等を活用した体験活動を行い、地域と一体となった学校作りに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学年を中心に「佐賀の七賢人」「山内かるた」について学習し、山内史談会との交流を通して、山内に対する愛着を深める。 	中学年	今村・林・石丸
				<ul style="list-style-type: none"> 低学年を中心に昔遊びを通して、黒髪大学との交流を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 体育大会に山内音頭を取り入れ、婦人会との交流を深める。 婦人会による、家庭科ボランティアを積極的に活用し、地域との交流を図る。 	低学年 保体部 家庭科主任

⑤ 「働き方改革」の実現に向けた取り組み

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌 (部)	担当者
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> 長時間労働の解消 業務改善と環境整備 	<ul style="list-style-type: none"> 一か月の残業時間が80時間以下の教員を100%にする。 学校行事や会議の精選効率化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 管理職は教職員の在勤時間等の実態を正確に把握する。(タイムレコーダーの有効活用) 職員会議の時間短縮と定刻終了に努める。 会議における提案の仕方、資料の作り方、配付仕方など、見直しを図る(無駄なものを省く)。 仕事の効率化に向けた取り組みについて、研修会を設け、全員の意識向上を進める。 「ノー残業デー」を週一日(金曜日)設け、定時退勤を促す。 行事を精選し、次年度の教育課程作りに反映する。 校務分掌を見直しを図り、精選する。 	管理職	校長・教頭

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌 (部)	担当者

●は共通評価項目、○は独自評価項目